

気づいて一歩ふみだすための人権シリーズ ③

コール&レスポンス

－ハラスメント－



「コール&レスポンス」とは、ジャズのセッションでプレーヤー同士が呼応しあうこと、また、コンサート会場で、プレーヤーと観客が呼応することを言います。

ハラスメントを防ぐことは人権尊重の上で重要な課題です。しかし、相手の心を知ることはできません。ハラスメントを防ぐためには、十分なコミュニケーションをとると同時に、相手が言いにくい立場にいる場合は、相手の心を十分に推し量り、思いを聞いてみるのが大切です。また、ハラスメントを受けていると感じたら、たとえ小さくとも声をあげ、それを相手に伝えることも大切です。

この作品では、職場におけるコミュニケーションの重要性を、「コール&レスポンス」というキーワードに仮託して考えていきます。

上映時間24分 [C#2970]

DVD 本体価格 66,000円(税抜)

解説書・チェックシート付き

字幕・副音声版付き



東映株式会社 教育映像部

〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17

<http://www.toei.co.jp/edu/>

コール&レスポンス

－ハラスメント－

○この作品は、**チャプターごとにドラマと振り返り解説が展開していく形で構成されています。**

胡桃沢真希は建設会社に入社して6年目。上司の大友由里子は女性初の管理職(室長)で、真希も憧れを抱いている。社会人としての先輩でもある父・吾郎は、真希にとって職場の悩みを聞いてくれる良き相談相手だ。

チャプター① －ハラスメントを生まない気づき－

課長の山田敦のハラスメントじみた不快な発言があり、職場にいやなムードが広がる。そこで、室長の由里子がぴしゃりと注意する。敦の心には、女性だからこうあるべき、男性だからこうあるべきという考えが潜んでいた。一方的な考えを相手に押し付けることがハラスメントの入り口なることを、吾郎は真希に教え諭す。



チャプター② －自分の理想、相手の思惑－

由里子は、方向性の違いから飯島隆也を独断で設計担当から外し、設計とは直接関係ない仕事ばかりさせる。真希が吾郎に相談すると、隆也のケースは専門性や経験からかけ離れた仕事ばかりさせるということで、パワーハラスメントに該当し、相手を追い詰めているのではないかと指摘する。



チャプター③ －言葉のハラスメント－

真希は、同僚たちの噂話の中にいた。噂の的は独身の由里子で、本人に確かめたわけでもない性的指向まで話題にのせている。吾郎は、それこそセクシュアルハラスメントで、同性同士のものや部下から上司へのハラスメントもあること、また、LGBTに対するハラスメントや軽口から始まるマタニティハラスメントもあることを真希に伝える。



チャプター④ －コール&レスポンス－

真希は、同僚の真奈美に妊娠したことを打ち明けられる。独身の由里子にマタニティハラスメントを受けるのではないかと心配したが、それは取り越し苦労で、由里子は真奈美を応援してくれた。吾郎は、上司から部下へ、部下から上司へのコール&レスポンス=お互いが呼応することの大切さを真希に伝える。そんな由里子だが、一方では隆也に対する態度は職場の雰囲気悪くするばかりだった。



真希は、由里子に、隆也と由里子の関係について思いを伝え、由里子は、隆也の気持ちを改めて聴き取り、新規の仕事の担当として隆也を起用することを決める。

プロデューサー 中鉢裕幸
脚本 山上梨香
撮影 笠原 晋
監督・編集 越坂康史
照明 笠 真吾
録音 八木重憲

制作協力 オープンアイズ合同会社
企画・制作 東映株式会社 教育映像部